

備前岡山獅子舞太鼓唄保存会

事務局所在地：岡山市出石町1-1-10 代表者氏名：浅田 昌己
電話番号：086-222-4241 FAX番号：086-222-4241

文化活動の目的

「備前岡山獅子舞太鼓唄」は、江戸前期の祭礼用獅子舞とコチャエ節の変化した太鼓唄からなる城下町の庶民芸能で、その保存・伝承のため後継者の育成に努めるとともに、岡山神社大祭等の神事やイベント、民俗芸能大会等の行事に積極的に参加し、広報、周知化を図っている。

文化活動の経過

（重要無形文化財 備前岡山獅子舞太鼓唄保存会 由来【概略】）

今から300有余年前、岡山城城主池田光政公という文武両道に優れた名君がおられ、家臣の志気の鼓舞に獅子を造り各々の神社より払い下げて高揚に役立ったのが起源と言われている。構成は雄、雌の親獅子と子どもの獅子の3頭から成って居り、他に太鼓、笛、鐘、唄の約15名で編成されている。

獅子の特質であるが、その昔、名字帯刀を許された名工の作によって何れも備前檜の一刀彫りで、気品と重厚さは他に追従を許さない。頭に角があるものは全国でも大変珍しく、重量が20kg前後もあり、他の獅子舞の様に曲芸的な華やかさはなく至極地味なものである。横笛、太鼓による静かなハヤシで眠っている獅子を起こして、天神権現の曲で踊りまくり、備前太鼓唄を勝どきの唄としてその幕を下ろすというのである。親子3頭の獅子舞の姿は勇壮活発、愛情のこまやかさは見る者をして思わず手拍子が湧き上がるのである。あたかも血の通って生きて居る様に見えるのがミソである。大草原に君臨する百獣の王者の片鱗をも見えるべく、日頃練習を重ねている。

太鼓もかたぎ太鼓として、獅子、笛、鐘、提灯を従え、唄を歌いながら練り歩く姿は獅子舞に勝るとも劣らないものがある。豆絞りの鉢巻、いち松模様の紺の法被、背中に池田藩のびぜん蝶の紋、腹掛、ぱっち、白足袋、草履、実にイキな出で立ちである。

現在の活動としては、県内外の各種全国大会や秋の岡山神社大祭への参加、毎年新年に行われる初舞、町内文化財お綱まつり、恒例の水神祭り等に出演、また、一年を通じ、県、市より出演依頼もあり、全国はもちろん外国の各種イベントにも参加し、観光岡山のPRにいささか貢献している。



母獅子、父獅子の2頭

文化活動の成果

保存会には3頭の獅子を保有しているが、長年の酷使に修理不能となっており、この度貴財団の助成金で子獅子を新調することができた。



町内毎年の行事、岡山神社秋の大祭（10月15日）での集合写真

今後の課題と問題点

今後は親獅子の製作を予定しており、伝統文化の継承・振興、地域の活性化に貢献できればと考えている。

また、後継者に町内の子供たちを育成してきたが、高校、大学を卒業すると親元を離れ町内に残る人は皆無である。他町内からも有志の若者の入会を切望している。

●執筆者：茂崎信正